

助産師教育

NEWS LETTER



公益社団法人

全国助産師教育協議会

Japan Society of Midwifery Education

No.91 2019. 10. 1



会長挨拶

2019（令和元）年度の定時社員総会にて、2019-2020年度の全国助産師教育協議会会長に就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。これまで井村真澄前会長はじめ、先輩諸氏が築いてこられた本協議会の基盤をしっかりと受け継ぎ、さらなる発展に向けて取り組む所存です。微力ではございますが、皆様のご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

さて、全国助産師教育協議会の前身は、1955（昭和30）年の厚生省（当時）と文部省（当時）主催による「助産婦学校長・養成所長会議」に遡ります。その後「全国助産婦学校長会議」として発展し、1965（昭和40）年に「全国助産婦教育協議会」が設立されました。以来、継続して助産師教育の向上と発展に努め、2010（平成22）年には公益社団法人として認定され、現在に至ります。

本協議会は「全国の助産師教育の向上と発展を図り、これにより女性・母子とその家族及び社会に貢献すること」を目的に、(1) 助産師教育の質の向上・環境整備に関する事業、(2) 助産師教育関係者のための研修事業、(3) 助産師教育機関相互の協力及び国内外の関連団体の協力と連携等、様々な事業を展開しています。

2015年には、質および量ともに十全な助産師育成を目指して、「助産師教育における将来構想ビジョン2015」を策定し、以下の3つのビジョンを示しました。

【ビジョン1】助産師教育期間は、看護基礎教育の基盤の上に2年とする。

【ビジョン2】学生の実践能力を向上できる実習環境を確保する。

神奈川県立保健福祉大学 村上 明 美

【ビジョン3】助産師教育の質保証に貢献できる教育者の能力向上を促進する。

これらのビジョンは、超少子高齢化を背景に、女性や子ども、その家族を取り巻く課題が山積する現代の日本社会において、地域や生活の場でも、高度化する医療現場でも、常に女性や子ども、その家族とともに存在し、女性の生涯にわたるリプロダクティブヘルス／ライツを護り、安全で安心な妊娠・出産・子育てを支えることのできる助産師の育成に向けて、必要不可欠な達成課題です。

ビジョン策定から5年が経過し、評価が必要な時期を迎えています。これまでの5年間をしっかりと振り返り、これからの本協議会の向かうべき方向性を見極めていきたいと思っています。

また、2018年より、厚生労働省において看護基礎教育検討会が開催されています。「助産師においては、家族機能の変化や女性の社会進出、晩婚化・晩産化の進行、周産期医療の高度化がさらに加速する中で、女性の生涯における性と生殖について、家族や地域社会に広く貢献することが期待されている（厚生労働省）」という社会にあって、2022年度からは保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正省令を適応した助産師教育が開始されることが決定しています。すべての会員校が、改正省令に示された助産師教育に円滑に移行できるよう、本協議会として最新情報の共有や対応策の提案等の機会を設けていきたいと考えています。

いつの時代にあっても、社会の動向に柔軟に対応し、対象のニーズに沿った質の高い助産ケアを提供できる助産師の育成に向けて、教育の充実を図っていく所存です。

扉.....	1
教育・活動報告	2
ニュース	4
全助協からのお知らせ	5

トピック	7
わかばの部屋	9
理事会報告	10

第44回全国助産師教育協議会全国研修会報告

東京地区 杏林大学

加藤 千 晶

第44回全国研修会はテーマを「妊娠期からの切れ目のない支援～助産師の果たすべき役割～」として、東京地区の会員校の皆さんの力を結集して、丸2日間、開催することができました。

1日目は「倫理」「研究」といった内容を学生にどのように教育していったらよいかということを掲げ、「倫理」は首都大学東京の安達久美子先生に、「研究」については杏林大学の松岡恵先生に講演をお願いしました。現在の学生たちの傾向をとらえ、「倫理」についてどのような題材で講義を行っていくことができるか、学生が行う「研究」について何をゴールとして、どのようにかわりながらゴールを目指すかといった、まさに今学生たちにこのように授業をし、このようにかかわっているという方法までもお話しいただきました。自分が感じていた学生への講義の難しさ、その難しさに対する工夫といったエッセンスも感じられ、講義にすぐに役立つ内容でした。また今回のテーマそのものである「妊娠期からの切れ目のない支援における助産師の役割」と題して、東邦大学の福島富士子先生に「子育て世代包括支援センター」「産後ケア事業」といった現在の母子保健において、助産師が最も関与すべき施策が、検討されていた時の歴史からお話をいただきました。助産師としての役割を政策提言し、母子の安全と健康をサポートしていくために行政を巻き込んで活動をしていく必要性を痛感した時間になりました。

また今回の研修会では、切れ目のない支援を実施するために「他職種連携・チームの協働」「地域支援に必要なコミュニケーション」と題して、1日目にプロセスデザイナーの源典典子氏、2日目にワークショップデザイナーの育成をされている青山学院大学の荻宿俊文先生に、参加型研修会を開いていただきました。プロセスデザイナーというのは「人の気持ちやモチベーション、人間関係、コミュニケーションのしかたや仕事のしかた、リーダーシップや意思決定、暗黙のルールなど、目に見えない部分（＝プロセス）に働きかけて、組織の人たちが自分の力で答えを見つけて解決していけるように一緒に考えていく「プロセス型」のコンサルティング」（スコラ・コンサルトHPより）をデザインして、組織の

変革をサポートする人で、プロセス型コンサルティングの講義を伺ったうえで、助産師として妊産婦支援の「ありたい姿」を考えました。できるかどうかではなく、理想の姿を思い、何が実現できたらワクワクできるか、もっと喜ばれるかということを考え、チームの中での対話を促進させていくためのスキルを伝えていただきました。荻宿先生からはワークショップデザイナー育成プログラム内容の一部を実施していただきました。ワークショップデザイナーとはコミュニケーションの場づくりの専門家と言われ、よりよい社会を築くために、いろいろな「協働」の結び目になる人（ワークショップ養成プログラムのHPより）だそうで、他の人の発言に拍手をして盛り上がったり、会場の座席から離れ仲間づくりをしたりと、まさに参加者中心の講習で、研修会のお手伝いをお願いしていたアルバイト学生も参加し、まさに全員参加の講習会となりました。研修会後のアンケートでも「時間があっという間に過ぎた」「楽しくて、どうやって学生たちの教育に取り入れようかワクワクしています」など、楽しめかつためになったという意見を多くいただきました。

2日目最後のシンポジウムでは、地域で母子の育児支援をしている助産師から活動の実際を話していただき助産師の活躍の場の広さ、活動の多様性を実感しました。また他職種の方々からは、助産師に対して母子支援活動への期待やエールを送っていただき、会場からも活発な質問、意見が出て、盛会のうちに終了することができました。

すべての講演をアドバンス助産師（区分教員）更新申請研修とすることができ、参加してくださる方々への参加意義を高めることができましたが、WHC区分での申請要件がもう少し早く発表されれば、WHC研修も取り入れ、教員以外の助産師の参加も募ることができたと考えます。「母子のために、家族のために」と活動している助産師仲間が交流でき、情報交換の場ともなり得た研修会にできればもっと良かったと欲張りな感想も持っています。

参加者の皆様、また当番地区の東京地区の会員校の皆様、本当にありがとうございました。2019年度の全国研修会当番地区である「北海道・東北地区」のみなさまの研修会開催を楽しみにしています。

2019年度 第10回（通算55回） 公益社団法人全国助産師教育協議会提示社員総会報告

2019－2020年度 全国助産師教育協議会副会長
新潟青陵大学 **渡 邊 典 子**

2019年6月8日（土）・9日（日）、第10回（通算55回）定時社員総会が、大阪大学医学部保健学科で行われました。概要を報告いたします。総会には、正会員160校、総正会員数320名のうち312名の出席（本人238名、書面74名）がありました。

井村真澄会長の開会挨拶では、令和という新しい時代に向かって、高度医療および次世代育成包括ケアシステムに多職種とともに連携し、専門職としての役割が助産師に求められていることが述べられました。そして、2022年度開始の新カリキュラムを見据え、本会が既に示した現行教育コアカリキュラム（2018）、大学院モデル・コアカリキュラム（2018）、さらに、望ましい助産師教育（案）の検討について話され、人間的助産ケアの実現に向け、変革を起すことができる助産師教育のために心・手・力を合わせ進むべきことが述べられました。続いて、ご来賓の文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官杉田由加里様、厚生労働省医政局看護課看護教育係長岡本麻美子様、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健指導専門官猿渡央子様よりご挨拶があり、看護系大学における助産師教育、看護行政の動向と助産師教育、母子保健政策の動向に関する話題提供をしていただきました（それぞれの資料はHPに掲載しておりますのでご参照ください）。

次に、吉備国際大学の高橋睦子氏から「対話と信頼に基づく親子コミュニケーションー子育て世代包括支援に資する助産師教育」と題して教育講演をしていただきました。

総会議長には浅見恵梨子氏、五十嵐稔子氏が、議事録署名人には渡邊美奈子氏、安田孝子氏が推薦され、承認されました。議長より定款30条に基づき、正会員の過半数に達しており、総会が成立していることが報告され、議案の審議に入りました。

まず、渡邊典子副会長（総務担当）より平成30年度委員会活動の報告がありました。続いて北海道・東北地区伊藤幸子氏（地区長総括）より平成30年度地区別活動の報告がされました。また、加藤千晶地区長より杏林大学で行われた全国研修会の報告がされました。以上の事業活動報告は、特に質疑がなく過半数をもって承認されました。さらに、福島裕子会計担当理事より2018年度収支決算報告、武田江里子監事より監査報告があり、2018年度収支決算および監査報告は過半数をもって承認されました。また、本総会の終結の時をもって理事全員が任期満了

となるため、その後任者を選任する必要があることから、選挙管理委員長の米山万里枝氏より2019年から2020年度役員候補当選者の結果と紹介があり、その選任について、過半数をもって承認されました。次に、渡邊典子副会長が2019年度事業計画の説明・報告を行い、福島裕子会計担当理事から2019年度収支予算の説明・報告がありました。会員から特に質問はなく、以上をもって総会を閉会しました。

1日目の最後は地区別打ち合わせが行われ、地区長選出や地区研修会の活動等が検討されました。その後に行われた地区長打ち合わせ会では、各地区長へ地区長の位置づけと責務、地区長会の開催、地区研修会の内容（アドバンス助産師更新要件との関連）、会計について、渡邊典子副会長が説明しました。地区長総括は、関東甲信越地区の早川有子氏に決定しました。

2日目は、最初に新会長となった村上明美会長および新役員の方から挨拶、そして、旧役員の挨拶がありました。その後、将来構想委員会委員長の高田昌代氏から「『望ましい助産師教育（案）』についての提案」ということで、助産師に求められる資質・能力の7つの枠組み、将来に向けて育成したい助産師像（案）について説明がありました。これを基に教育課程別検討会で意見交換を行いました。

全体報告会では、地区別打ち合わせ会、教育課程別検討会、地区長打ち合わせ会の報告がされました。また、第45回全国研修会の北海道・東北地区担当校の正岡経子氏から2020年2月29日（土）・3月1日（日）に開催予定であることが報告され、助産師教育研修研究センター運営委員会担当理事の渡邊副会長からファーストステージ研修、セカンドステージ研修の開催案内がされました。最後に福島裕子副会長が大阪万博の太陽の塔の3つの顔：過去・現在・未来を助産師教育に重ね、閉会の挨拶を述べ、望ましい助産師教育に向け内容の濃い2日間を無事に終了しました。これも一重に会員の皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げますとともに、旧役員の方々、本当にお疲れ様でした。また、本総会では、寄付金について説明し受付を行なった結果、2日間で15万2,326円が集まりました。ご協力いただきました会員の皆様、ありがとうございました。本会への引き続きのご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

臨床の実態から求めるこれからの助産師教育

社会医療法人 愛仁会本部

倉本孝子

現在私は、総合周産期母子医療センター、地域周産期母子医療センター機能をもつ3つの産科施設、及び助産師養成教育機関をもつ社会医療法人に在籍している。ここ数年間における臨床の変化は大きく、現状の助産師教育によって卒業した助産師と、臨床が求める助産師との乖離が更に拡がっていると感じるようになった。このことは、国家資格を持つ助産師の卒業時の到達度としてどうあるべきかというだけでなく、臨床や社会の変化に助産師がどのように対応していくのか、更には新人助産師の適応や新人臨床研修制度における教育についても影響してくる。今回は臨床の状況をふまえて、「周産期の実態と助産師業務の変化」「新人の到達状況」からこれからの助産師教育に向けての意見を述べたい。

臨床における周産期の変化としては、1. 分娩件数の減少、2. 身体的ハイリスクおよび心理・社会的ハイリスクの増加と正常（順調な）経過の対象者の減少、3. ニーズの多様化・多様性が挙げられる。平成に入り、緩やかに減少を続けたわが国の出生数は、2018年91.8万人と過去最低を更新し、10年前より5年毎で5.6%、10.9%減と減少率が著しくなっているが、当法人においてもその傾向は顕著に現れ、全国の減少率とほぼ同様な減少を辿っている。ただ、施設によっては高齢化が進んでいる地域をもつ医療圏や同じ医療圏にある分娩施設の数、或いは市町村の子育て世代に対する施策も影響し、医療圏別出生数の減少は、5年間で48%～122%の差がある。

また、2015年から5年毎の法人3施設の医療圏における出生数は、2020年11%減、2025年18%減、2040年には31%減となることが予測されており、現状の助産師数が必要かどうかとも危惧される問題が出てきている。更に、高度医療が必要なハイリスク状態にある妊産婦や新生児が増加しており、当法人（1施設）で分娩した産婦（1ヵ月の概数）の背景をみると、基礎疾患・母体合併症をもつ者40%、早産・過期産10%、高年齢・若年齢出産30%、分娩時異常30%、新生児の疾患・合併症10%、NICU入院15%、帝王切開率35%と妊娠期から順調に経過し、正常分娩で進行できる方はかなり少ない状況になってきている。このことは、順調な経過の妊産婦に比べ、診療の補助行為や処置にも時間がかかり、ケアの時間をとることを難しくしているだけでなく、助産診断や異常の予測も含めて新人時代から1人で受け持って対応することも難しくさせている。また、身体的ハイリスクだけでなく、精神疾患をもつ方、家庭内に問題をかかえている方、特定妊婦、育児不安とともに家族関係や人間関係構築が難しい方、虐待やDV、未受診、出産後育てられないなど、心理的・社会的ハイリスクの方も増え、個々のケアや対

応にじっくり時間をかけることが必要な状況が多くなっている。特に臨床心理士やMSWとの早期からの連携、地域（市町村）との情報交換によって継続したケアが必要な場合も多く、中堅以上の助産師でなければなかなか対応できないなど、現場では中堅・ベテラン助産師の役割が益々過重になってきている。加えて、妊産婦とその家族のニーズの多様化・多様性が挙げられる。ここ数年の院内助産の実施状況をみると、総分娩件数が減少しているにもかかわらず、院内助産に占める割合は、6年間で11%から16%となり、総数も138%と増えている。妊娠期から産後までアドバンス助産師がじっくりとかわるることによる継続したケアを求めている方が増えている一方、無痛分娩を希望される方も少なくない。また、産後も授乳に関する不安から産後ケアを望まれる方や長期間にわたって乳幼児の成長・発達や生活の変化に適応することが難しい方もおられ、支援の幅が広がっている。

このような中、当法人の産科配属助産師は現在約170名、うち20名前後の新卒者を毎年受け入れ、新人臨床研修の1年後には一人で実践できることを目標に指導を行なっている。1年後の到達状況をみると、7割以下の到達項目は、「妊娠経過の正常・異常の判断」「胎児の成長と健康度の評価」「親準備教育の運営・実施」「母乳育児ケアの相談」「分娩入院の時期判断」「分娩第1～4期の経過診断」「母体搬送入院時のケア」「胎児異常時の精神的フォロー」「死産のケア」「新生児の緊急・異常時対処と家族への援助」「褥婦の心理社会的側面の診断」が上げられた。この中には、卒業時に到達していると判断された項目もあるが、実習はできるだけローリスクで経験できるようにしている現状をみると、社会に出て実践する事例はかなり複雑で、到達するためには更なる経験と確かな判断・技術力が求められる。

以上より、これからの新人助産師、即ち卒業時に必要な能力として現場が求めることは、①助産師としての自律：分娩1例1例にじっくりかわり安全な介助技術が提供できる能力、即ちローリスクの妊産婦は一人でケアできる実践力を持つこと、②助産師の役割拡大：妊娠期から育児期の助産診断力の更なる向上とさまざまな対象に対応できる人間関係能力を高めることである。妊娠期から子育て期まで継続して切れ目のないケアが求められている今、これまで以上に様々な視点から判断して予防的な関わりや環境・時代の変化に応じたケアを創造する能力が必要となる。そのような能力の基礎を教育機関と現場がより一層協力して学べる環境を作り、到達できるようにしていくことが母子を守る助産師にとって重要なことであると思っている。

第11回（通算56回）公益社団法人全国助産師教育協議会 社員総会開催のお知らせ



（浜松医科大学マスコットキャラクター）

日程：2020年6月13日（土）・14日（日）
場所：浜松医科大学 講義実習棟 特別講義室
住所：静岡県浜松市東区半田山1-20-1

2020（令和2）年度の総会会場は浜松市（静岡県）となります。浜松はうなぎの産地として有名な浜名湖、ウミガメの産卵地でもある中田島砂丘、井伊直虎ゆかりの地である龍潭寺、徳川三百年の歴史を刻む浜松城等、自然と歴史を楽しむことのできる地です。

第10回の社員総会では「望ましい助産師教育（案）」についての提案がされ、活発な意見

担当

浜松医科大学大学院 武田 江里子

交換がなされました。今後の指定規則の改正に伴い、それぞれの教育課程で「望ましい助産師教育」を行うための検討が求められてきます。各校の特徴を活かしながら、社会のニーズに応え、かつ女性一人一人のニーズに応えていくことのできる助産師を養成していくことが期待されています。第11回の社員総会でも、助産師教育について会員の皆様のご意見をお聞きし、今後の活動に活かしていけるよう努めていきたいと考えております。

会員校の皆様および個人会員の皆様のご出席を心よりお待ちしております。

〈ウィメンズヘルスケア・サポートブック〉

根拠に基づく冷え症ケア

中村幸代 著 ●B5判 96頁 定価（本体1,800円＋税）

「冷えがなぜよくないか」納得の上でケア実践！

日本人女性の7割が抱えると言われる「冷え症」にフォーカス。著者自身の研究成果（エビデンス）をもとに、冷え症に関する知識と具体的なケア方法を紹介します。



新版 助産師業務要覧 第3版 2019年版

福井トシ子 編

主に学生が対象

I 基礎編 ●B5判 312頁
定価（本体2,800円＋税）

主に実践者が対象

II 実践編 ●B5判 360頁
定価（本体3,000円＋税）

主に「アドバンス助産師」、
中堅的・管理的立場が対象

III アドバンス編 ●B5判 224頁
定価（本体2,200円＋税）

助産師基礎教育テキスト 第7巻 2020年版 ●B5判 404頁（予定） 今秋大改訂 定価（本体4,600円＋税）



日本看護協会出版会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会ビル4F

（営業部）TEL.03-5778-5783 FAX.03-5778-5786

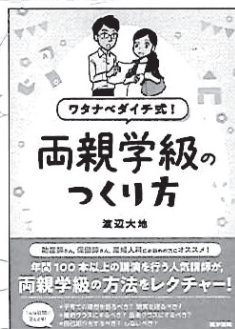
【コールセンター（ご注文に関するお問い合わせ）TEL.0436-23-3271 FAX.0436-23-3272】

<http://www.jnapc.co.jp>

ワタナベダイチ式！

両親学級の 作り方

渡辺大地



年間100本を超える講演を担当する講師が、
両親学級の方法をレクチャー！

両親学級を運営するのに必要な考え方、スキル、コツと、さまざまな施設での両親学級の取り組みを紹介。「助産雑誌」で人気の連載が1冊に！

セミナー開催！

ナーシングカフェ

ワタナベダイチ式！両親学級の作り方

ママだけでなく、パパにも響く秘訣とは？

日時：2019年9月29日（日）

詳しくはこちらまで →
<https://seminar.igaku-shoin.co.jp/detail/sem190929.html>



●A5 頁216 2019年 定価：本体2,400円＋税
[ISBN978-4-260-03913-0]

医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] <http://www.igaku-shoin.co.jp>
[販売・PR部] TEL:03-3817-5650 FAX:03-3815-7804 E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp

第45回全国助産師教育協議会全国研修会のお知らせ

北海道・東北地区担当校
札幌医科大学助産学専攻科

正岡 経子

令和初の全国研修会は、北海道地区において「再考、助産教育－専門職の成長を支える－」をテーマに開催いたします。

全国の助産師教育の向上と発展を図り、これにより女性・母子とその家族及び社会に貢献するという全国助産師教育協議会の目的に基づき、プログラムは助産師教育の質向上につなげる内容を目指しました。2019年2月に組織強化委員会が会員校を対象に行ったオンライン調査の結果では、回答した70校のうち、48校（68.6%）が本協議会の活動のうち役立つ事業として「全国研修会」をあげていました。また、希望する研修内容として「アドバンス助産師更新要件の研修」や「教員の教育力向上に関する研修」、「全国助産師教育協議会ならではの研修」等があげられていました。今回の研修会のプログラムは、これらの意見を反映させて企画いたしました。

プログラムの企画と同様に、開催時期についても検討を重ねてまいりました。全国研修会は例年2月～3月に開催されてきましたが、この時期、北海道は春まだ遠く雪による飛行機の欠航もありえる時期です。秋の開催案も浮上しましたが、教員の皆様にとっては助産学実習のため土日でも継続事例のお産などにより落ち着かない、研修には不適當な時期と考えられました。結論として例年と同時期の開催とし、各教育機関の行事や学会などを避けた日程に決定いたしました。

2月末日から3月初日の北海道はまだ冬ですが、日によっては春の訪れが近いことを感じられる季節です。助産師教育力の向上をメインにおきながらも、北海道の海の幸、山の幸を堪能し、冬の暮らしを体感してみませんか。北海道地区をあげて、皆様のお越しをお待ちしております。

第45回 全国助産師教育協議会全国研修会

日程：2020年2月29日（土）～3月1日（日）

会場：札幌医科大学 教育研究棟Ⅰ

札幌市中央区南1条西17丁目

プログラム：

〔2月29日〕

＊会長挨拶

全国助産師教育協議会 会長 村上明美

＊講演 専門職の成長プロセス

北海道大学 教授 松尾睦

＊ワークショップ 助産教育の実践例1

学生助産師から新人助産師へ、切れ目のない支援

札幌医科大学 教授 正岡経子他

＊講演 日本最東端 中標津町の子育て支援

－連絡から連携へ、地域はどう変わったか－
町立中標津病院 社会福祉士 藤田泰

〔3月1日〕

＊講演 データから真実をよみとる

－研究の組み立てと統計データの解釈－
札幌医科大学 教授 樋之津史郎

＊講演 倫理的感応力（ケアリング）の教育

日本看護学教育評価機構
代表理事 高田早苗

＊講演 助産の分野別評価受審が教育改善に
どう役立つか

日本助産評価機構 理事長 堀内成子

＊ワークショップ 助産教育の実践例2

実習後のナラティブアプローチによって得られた専門職大学院生の学習過程の分析
天使大学大学院 講師 三浦恵津子他

【お問い合わせ先】

札幌医科大学 助産学専攻科 正岡経子

電話 011-611-2111 内線28510

E-mail k.masaoka@sapmed.ac.jp

卵子の老化を考える

ミオ・ファティリティ・クリニック 見 尾 保 幸

21世紀の先進諸国では、人口減少、少子・高齢化が声高に叫ばれ、大きな社会問題となっている。また、女性にまつわる様々な要因により、未婚女性の増加、既婚女性の高齢化、妊孕能低下も誠に深刻な状況となっている。我が国においても、この課題に関わる全ての人々が大きな危機感を抱いているが、その具体的かつ有効な対策は一向に進んでいないのが現状である。

女性の妊孕能には、時間の経過とともに変化する2つの因子が大きく関与する。一つは、卵巣内に含まれる卵子数の減少であり、他方は、その卵子の質的劣化である。まず、女性の卵巣内の卵子数の推移に関しては、胎児期（妊娠5週頃）に未分化性線が卵巣へと発育し、卵子（原始卵胞）が形成され始め、その後、急激にその数が増加し、妊娠20週頃にピーク（約600万個程度）になると言われている。しかし、その数は出生時には約100万個程度に減少し、その後も、急激に減少の一途をたどる。一般的に、女性が初潮を迎え、性機能が動き出す頃（13～15歳）には約30万個、更に、その20年後（約35歳）では、約2万5千個程度に減少する。つまり、女性の卵巣内卵子数は、ピークである胎生期の約600万から出生時期には6分の一（約100万個）、また、出生時期を起点とするなら、思春期で3分の1、35年後には1～3%程度しか残らないことになる。しかし、幸いなことに、卵巣内の卵子は、閉経時であっても数千個程度は残存しており、なくなることはないと考えられている。これらの一連の変化は実感することは不可能であるが、まさに劇的であり、従来から個人差こそあれ女性にとって不可避なこの生涯に渡る卵子数の変化を踏まえたライフプランの設定が必須であった。

しかし、40年前、ヒトにおける体外受精が開発され、さらに、顕微授精や受精卵凍結保存／融解胚移植など、一連の生殖補助医療（ART）が急激に普

及するに伴い、本来、妊孕能が極めて低下し、残存卵子数が減少した高齢婦人であっても、ARTの有効利用により、残存卵子の中で健常児につながる良質卵子が得られれば、その1個の卵子から妊娠・生児獲得が不可能でなくなってきた。我々は、従来から、ARTの有効性を評価する上では累積妊娠率が最重要と考えており、これまでの12年に及ぶ年齢別累積妊娠率を算出している。それによると、治療継続中の40歳未満での累積妊娠率は各年齢層でいずれも90%以上となり、40歳代前半でも約78%に達する。この事実は、条件の厳しい40歳を超えた夫婦でも、反復治療によりどこかで良質卵子に遭遇し、そのワンチャンスを活かすことにより、妊娠可能であることを示している。一方で、最近の我が国のART年次報告（日本産科婦人科学会、2016年）では、年間約44万2千周期の治療が行われ、約5万3千人の児が誕生しており、これは、胚移植あたりでは約20%程度に留まっており、今後改善の余地はある。しかし、この現状でも、我が国の年間出生児の約20人に1人に相当し、この比率は今後益々上昇の一途をたどると考えられ、今や、拳児を得るための手段として、ARTは必要不可欠となっている。

他方の因子として、卵子の劣化が重要である。女性の妊娠出産の適齢期が初潮から10年～15年であることの意味は、卵巣内卵子の数、ならびに、卵子の質が担保されている時期であると考えられる。加齢に伴う卵子の質的低下は、概念的には専門家の間では熟知され、その対応に苦慮している。しかし一般には、十分に認識されているとは言えない。

加齢に伴う質的低下のメカニズムに関する基礎研究は、ヒトでの研究に大きな倫理的制約があり、また、実験モデル作成の困難さも加味され、思うに任せられない状況である。様々な細胞生理学的研究も進められているが、未だ、臨床へフィードバックできる具体的成果は得られていない。その中で、多く

の研究者が、卵細胞、あるいは、胚細胞内のミトコンドリア機能や数に着目した研究が広く進められ、その幾つかが臨床応用されている。しかし、今現在、具体的成果を得るに至っていない。また、細胞内小器官に関する研究も積極的に進められており、近い将来、卵子の質的低下に対する有効な対応策が見出されることを期待したい。我々は、地道に、堅実に実施可能なアンチエイジング、健全な身体づくり対策として、食の重要性を長く訴えてきた。我々の長年の取り組みは、「みおごはん」という冊子にまとめ、上梓している。近年、食を含めた様々な環境要因と卵子、受精卵、胎児、母体の健康などとの関連が話題となっており、卵子の質的低下に関する基礎的研究成果が得られるまでは、こういった地道な、しかし、確実な状況証拠に基づく対応が今必要なのではないかと考える。

最後に、喫緊の考慮すべき課題について述べてみたい。30余年に渡り、女性の健康と妊娠、女性の年齢と妊孕能の関係、生命の誕生の尊さ・素晴らしさ等につき、機会あるごとに訴え続けてきた。しかし、その声は広く、遠くには極めて届きにくい。私達は、一人でも多くの人達がこのことに気づき、危機感を持ち、声を一つにして、社会に訴えかけていく必要があると考える。特に、これらの内容を適切に、的確に、ジュニア世代から説いていく真の優しく、思慮深い制度作りに鋭意努力していくことが何より望まれる。

この事により、次代を担う若い人たちが、自らのライフプランを自らの意思で、後悔しないですむ選択ができるよう、我々がその道を開いていくことこそ、我々の何より重要な使命と考えなければならぬ。

子宮頸がん検診演習パーツ

LM-101K 標準価格 ¥30,000 (税別)

子宮頸がん検診の演習に使用する内診モデル用外陰部Ⅱ型LM-101Fのオプションパーツです。内診モデルの子宮開大度モデルの代わりに取り付けることで、子宮頸がん検診の手技や流れを演習することができます。

株式会社 高研

札幌営業所 TEL(011)221-5888 / 仙台営業所 TEL(022)393-5115
東京営業所 TEL(03)3816-3500 / 名古屋営業所 TEL(052)950-6580
大阪営業所 TEL(06)6304-4854 / 福岡営業所 TEL(092)263-5101

***** www.kokenmpc.co.jp

KOKEN



※別売品
内診モデル用外陰部Ⅱ型
LM-101F

© 2019 KOKEN CO., LTD.

ウィルネクスト
Willnext

「ケガ・感染・日常の賠償」(団体総合生活保険 + 共済制度)は、

4つの補償を備えた

医療従事者のための補償制度です。

このご案内は、Willnext「ケガ・感染・日常の賠償」の概要をご紹介します。ご加入にあたってはパンフレットに記載の「重要事項説明」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合は取扱代理店までお問い合わせください。

制度運営 一般社団法人日本看護学校協議会共済会
引受保険会社 東京海上日動火災保険株式会社 (担当課) 医療・福祉法人部 法人第一課
〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 ラ・メール三番町 TEL:03-3515-4143

約68%
割引
年間掛金
6,200円
年会費100円と
共済制度運営費
370円を含む

1 ご自身のケガ

2 日常生活における賠償責任

3 インフルエンザ・感染性胃腸炎等の罹患に…
感染見舞金制度 (自宅待機期間も可)

4 針刺しなどの職業感染事故に…
検査代等に対する見舞金制度

保険期間 2019年3月31日午後4時～2020年3月31日午後4時まで
(毎月中途加入を受け付けております)
詳細につきましては下記取扱代理店までお問い合わせください。

資料請求・お問い合わせ先 取扱代理店
株式会社メディックプランニングオフィス 〒104-0033 東京都中央区新川12-22-6 SJIビル2F
☎0120-847861 9:00～17:00 (土・日・祝日・年末年始を除く) 18-TC05250 (2019年3月作成)

助産師教育に携わって思うこと

関西福祉大学 看護学部

母性・助産領域 助教 川崎千春

本学は兵庫県の南西端、岡山県との県境に位置する忠臣蔵の舞台で有名な赤穂市にあり、キャンパスの近くには名水百選に選ばれた清流千種川が流れています。2006年、看護学部看護学科が開設され、2017年、看護師、保健師、養護教諭取得モデルに加え新たに4年間で看護師と助産師両方の単位が取得できる助産師取得モデルが設置されました。各学年の定員は6名ですが、少人数ゆえに教員と学生の距離を近くに感じられる環境が整っています。

本学では、地域における助産師活動の一環として「ベビーピククラス」を開催しています。助産師学生は、この事業に参画し、準備から片付けまでを一緒に行うことで、実際のクラス運営の在り方を学習します。助産師である大学教員と地域で活躍する保健師をはじめとした専門職者との協働や母子への支援の実際について学べる環境は、本学の特徴のひとつともいえます。

私自身、臨床で10年の経験を経たのち教育の道へ進むことになり、母性看護学を主として小児看護学、基礎看護学の教育にも携わり日々奮闘しています。助産師取得モデルが設置される以前は、母性看護学実習を通して、助産師に憧れ「助産師になる」と決意した学生さんの今後の成長に関わることができないことに少し寂しさを感じていました。しかし、実際に助産師教育に携わるようになってからは、喜びがあった反面、漠然とした不安がありました。それは、助産師教育は、病院で勤務をしていた時に臨床指導者の立場での経験しかなかったからです。

今年3月、平成最後の年に初めて助産師学生である卒業生を送り出し、7月からは2年目の実習が始まりました。私自身も助産師教育に携わり2年目を迎えています。主に演習や臨地実習で学生と関わる機会が多いなか、個々の理解度に合わせた教育や個性をふまえた関わりの難しさ、自身の知識の乏しさ

を日々痛感しています。ケアや行動に移せているのに根拠が理解できていないケースや、演習でできていたことが臨地実習では自信が持てず委縮し、行動に移せるまでに時間を要するケースなど学生の理解度や個性は様々です。そのため、学生と十分にコミュニケーションをとり、寄り添いながら個々をよく理解したうえで接していくことが大切であると考えています。また、学生は臨地実習において教員との関係、臨床指導者やスタッフとの関係、さらには妊産褥婦や家族との関係性の構築にストレスを感じることもあると思います。なかでも、臨床指導者との関わりが多いため、指導者と学生の情報を共有しながら学生一人ひとりに合った教育の方法を検討し、「助産師になる」というモチベーションを維持していけるように教員と臨床指導者間で連携していくことが必要であると考えます。

助産師教育に携わる教員としては、まだまだ新人の私ですが、この2年間心掛けてきたことは、学生が体験したことを一緒に振り返る機会を持つこと、さらには意味づけによって理解を促し、今後の行動や実践に自信がもてるように丁寧に関わっていくことです。常にできたことを認め、共に喜び、小さな自信を積み重ねていくことが助産師を志す学生のモチベーション維持に繋がっていくのではないかと感じています。また、実習前の演習においても臨地実習に近い状況を設定し、イメージがもてるような演習プログラムを組み立てていく必要があると考えます。さらに、私自身も学生と共に学び成長できるよう日々努力が必要です。本学の理念でもある「人間平等」「個性尊重」「和と感謝」を大切に、学生の個性を尊重して平等に接し、同僚、上司や施設のスタッフ、妊産褥婦さんをはじめとする周産期領域に関わる全ての人々に思いやりの気持ちと感謝の意を伝えながら、今後も助産師教育において自己研鑽を積んでいきたいと思っています。

公益社団法人 全国助産師教育協議会

平成30年度 第4回理事会議事次第

日 時：平成30年8月19日（日）11：00～16：00
場 所：東京都助産師会館 5階 会議室
出席理事：井村 真澄、大石 時子、久保田君枝、永橋 美幸、福島 裕子、
正岡 経子、村上 明美、若井 和子、渡邊 典子、渡邊 浩子
出席監事：武田江里子
欠席監事：猿田 了子
出席幹事：森 聖美、山崎 圭子
書 記：森 聖美 （敬称略）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 平成30年度第3回理事会議事録（案）承認について
- 2) 第9回社員総会議事録について
- 3) 要望書関連について
 - ①要望書の内容について自民党看護問題小委員会、厚労省、文科省要望書
 - ②自由民主党政務調査会厚生労働部会、看護問題小委員会への参加者確認
- 4) 「助産診断技術能力向上に向けた教育内容の検討」プロジェクト
- 5) 教育検討委員会（評価班）委員増員について
- 6) アドバンス助産師更新要件研修承認について
 - ①アドバンス助産師更新要件の確認方法
 - ②近畿地区、東京地区
- 7) 第33回日本助産学会 全国助産師学生交流会・講演会等企画案について
- 8) 激甚災害指定決定および大阪北部地震への対応
- 9) マンスリーメールについて
- 10) 2019年度・2020年度選挙管理委員会委員選出
- 11) 正会員入会の承認について
- 12) 研修修了証再発行の書式について
- 13) アドバンス助産師〔教員〕区分更新要件の指定研修180時間の担保と保証について
- 14) eラーニング担当講師の謝金、およびeラーニング視聴料について
- 15) 2019年度ファーストステージ研修の開催地について

III 報告事項

- 1) 社員総会収支決算書について
- 2) 社会貢献委員会
 - ①【情報提供】映画「インクレディブル・ファミリー」と健やか親子21のタイアップポスターについて
 - ② 平成30年7月豪雨の支援について
 - ③「中・高校生向けリーフレット」について
- 3) 組織強化委員会
 - ①平成30年度全助協活動マップ
 - ②ビジョン2015に基づく事業計画(2018年度)
 - ③平成30年度版会員勧誘リーフレット
 - ④助産師教員ラダー（案）に係る委員会活動の経緯
 - ⑤「助産師教育のキャリアラダー」に関する理事の意見集約結果
- 4) コアカリキュラム合同プロジェクト
 - ①大学院および現行教育のコアカリキュラム2018版の確定について
- 5) ニュースレター No.90進捗状況について
- 6) セカンドステージ研修募集要項について
- 7) 助産師教育研修研究センター運営委員会調査報告 調査実施について

IV その他

- 1) 第3回 看護基礎教育検討会（厚労省）
- 2) 「ひまわりの会」ご案内について
- 3) 「いいお産の日」11月3日 記念日登録（助産学会提案）について

平成30年度 第5回理事会議事次第

日 時：平成30年10月14日（日）11：00～16：00
場 所：東京都助産師会館 5階 会議室
出席理事：井村 真澄、大石 時子、久保田君枝、永橋 美幸、福島 裕子、
正岡 経子、村上 明美、若井 和子、渡邊 典子、渡邊 浩子
出席監事：猿田 了子、武田江里子
出席幹事：山崎 圭子
書 記：山崎 圭子 （敬称略）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 平成30年度第4回理事会議事録（案）承認について
- 2) 特定費用準備金の取り崩しについて
- 3) 平成31年度事業計画・予算案提出について
- 4) 産婦人科がん検診（アドホックプロジェクト）
 - ①冊子
 - ②産婦人科がん検診報告の教育案
- 5) 教育検討委員会（評価班）
 - ・中部地区研修会 タイムスケジュール
- 6) 組織強化委員会
 - ・会員に対する資料等の送達の見直しについて
- 7) コアカリ合同プロジェクト委員会
 - ①大学院における助産師教育モデル・コアカリキュラム
 - ②現行の助産師教育におけるコアカリキュラム

- 8) アドバンス助産師更新関連
 - ・アドバンス助産師更新要件【教員】区分の指定研修範囲について
- 9) アドバンス助産師更新要件研修承認申請書について
 - ①CLoCMiP レベルⅢ〔教員〕の更新要件の指定研修 申請手続き
 - ②CLoCMiP レベルⅢ〔教員〕の更新要件の指定研修 一覧表
 - ③研修申請書（東京地区・中部地区）
- 10) 平成30年度第44回全国研修会日程案について
- 11) 個人会員入会の承認について

III 報告事項

- 1) 教育検討委員会（評価班）
 - ・日本助産学会での取録
- 2) 社会貢献委員会
 - ①平成30年7月豪雨に関する社会貢献委員会 活動概要
 - ②第33回日本助産学会学術集会における学生交流会・講演会ならびに学生ポスター発表企画について
- 3) 組織強化委員会
 - ・ビジョン2015に基づく事業計画
- 4) 中国・四国地区交流会・研修会報告
- 5) 資格・専門能力委員会
 - ①助産師国家試験ブル問題作成・登録に関する研修会報告
 - ②中国・四国地区研修会アンケート結果
 - ③北海道・東北地区研修会アンケート結果

IV その他

平成30年度 第6回理事会議事次第

日 時：平成30年12月1日（土）11：00～16：00
場 所：本会事務所
出席理事：井村 真澄、大石 時子、久保田君枝、永橋 美幸、福島 裕子、
正岡 経子、村上 明美、若井 和子、渡邊 典子、渡邊 浩子
出席監事：猿田 了子、武田江里子
出席幹事：森 聖美、山崎 圭子
書 記：森 聖美 （敬称略）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 平成30年度第5回理事会議事録（案）承認について
- 2) 厚労省・文科省要望書について
- 3) 平成31年度事業計画・予算案の提出について
 - ①平成31年度各委員会事業計画・予算案
 - ②平成31年度収支予算案
 - ③資格専門能力委員会予算補填について
 - ④事務局コピー機の取り換え・会員管理ソフトの導入について
- 4) 教育検討委員会
 - ①教育検討委員会（推進班）からの「ビジョン2015における事業計画」の修正について
 - ②教育検討委員会（評価班）から、委員の移動に伴い次年度の委員の推薦のお願いについて
- 5) 国際関連活動委員会
- 6) 社会貢献委員会
 - ①第33回日本助産学会学術集会における全国助産師学生交流会（案）について
 - ②「平成30年7月豪雨」、「北海道胆振東部地震」に関する会員校への情報提供について
 - ③災害の支援対応について
 - ④「中・高校生向けリーフレット」更新について
- 7) 組織強化委員会
 - ・全国助産師教育協議会の活動に関するアンケート（案）について
- 8) 資格・専門能力委員会
 - ①平成30年度予算補填のお願い
 - ②平成30年度事業計画・予算案
 - ③収支報告
- 9) 【全国研修会】アドバンス助産師更新要件研修承認事前申請書の承認

III 報告事項

- 1) 社会貢献委員会
 - ①第33回日本助産学会全国助産師学生交流会・講演会ならびに学生ポスター発表 予算案について
 - ②「北海道胆振東部地震」に関する社会貢献委員会 活動概要
 - ③健やか親子21全国大会参加報告
 - ④平成30年度オレンジリボン運動参加校一覧
- 2) 資格・専門能力委員会
 - ①第102回助産師国家試験問題設問検討のスケジュール
- 3) アドバンス助産師〔教員〕更新要件
 - ①CLoCM i P レベルⅢ[教育]更新要件の研修申請手続きフローチャートの確認
- 4) 第44回 全国研修会チラシ
- 5) 助産師教員のキャリアラダーの概要について

IV その他

平成30年度 第7回理事会議事次第

日 時：平成31年1月12日（土）13：00～16：00

場 所：日本赤十字看護大学 2階 204教室
 出席理事：井村 真澄、大石 時子、久保田君枝、永橋 美幸、福島 裕子、
 正岡 経子、村上 明美、若井 和子、渡邊 典子、渡邊 浩子
 出席監事：猿田 了子、武田江里子
 出席幹事：森 聖美、山崎 圭子
 書記：森 聖美（敬称略）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 平成30年度第6回理事会議事録（案）承認について
- 2) 平成31年度事業計画・予算案の提出について
・平成31年度各委員会事業計画・予算案
- 3) 教育検討委員会
・理事・班長任期終了時の倫理審査申請について
- 4) 組織強化委員会
・助産師教員のキャリアラダーに関する意見集約後の提案と検討課題について
- 5) 資格・専門能力委員会
・助産師国家試験問題の作成・登録マニュアル（案）について
- 6) 助産師教育研修研究センター運営委員会
・助産師教育研修研究センターの位置付について

III 報告事項

- 1) 文科省・厚労省 要望書提出
- 2) 第33回日本助産学会 全国助産師学生交流会・講演会、学生ポスター発表 進捗状況
- 3) 会計からの報告
①将来構想委員会のH30補正予算申請について
②研修センターの今後の収支見通しについて
- 4) 金城大学看護学部柳原真知子先生より一般寄付金100,000円

IV その他

- 1) 選挙スケジュール
- 2) 京都科学 東日本営業部より社員総会での展示の依頼について

平成30年度 第8回理事会議事次第

日 時：平成31年3月17日（日）11：00～16：00
 場 所：東京助産師会館 5階会議室
 出席理事：井村 真澄、大石 時子、永橋 美幸、正岡 経子、村上 明美、
 若井 和子、渡邊 典子、渡邊 浩子
 欠席理事：久保田君枝、福島 裕子
 出席監事：猿田 了子、武田江里子
 出席幹事：森 聖美、山崎 圭子
 書記：森 聖美（敬称略）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 平成30年度地区長会議事録（案）の承認について
- 2) 平成30年度第7回理事会議事録（案）承認について
- 3) 【バブコメ】平成31年度事業計画（案）について
- 4) 会計関係
①平成31年度収支予算書（案）について
②各委員会事業計画・予算案
- 5) 平成31年度総会日程（案）について
- 6) 役員選挙について
- 7) 全助協組織図（案）について
- 8) 組織強化委員会
①助産師教育ラダー（案）に対するバブコメ
②助産師教育のキャリアラダー
- 9) 将来に向けて育成したい助産師像（案）
- 10) 広報委員会
①HPの担当地区順番・地区長の役割（案）
②HP掲載申し合わせ事項、HP掲載手順
③ニュースレター第91号発行担当一覧（案）
- 11) 正会員・個人会員入会について

III 報告事項

- 1) 国際関連活動委員会
①海外情報提供-イリノイ大学DNP（看護実践博士）助産課程
②聴鏡診及び子宮頸がん検査の教育案作成
HP掲載結果
- 2) 社会貢献委員会
①平成30年度オレンジリボン運動参加校一覧
②第33回日本助産学会全国助産師学生交流会について
③第18回健やか親子21全国大会参加報告
- 3) 広報委員会
・全助協メールアドレスのサイバー攻撃について
- 4) 資格・専門能力委員会
①102回助産師国家試験分析報告
②助産師国家試験問題の作成・登録マニュアル完成版の報告
③第10回社員総会ご案内の報告
- 5) 第44回全国研修会参加者報告

IV その他

- 1) 「第5回 山上の光賞」候補者について
- 2) 2023年更新に向けたアドバンス助産師検討事項

令和元年度 第1回理事会議事次第

日 時：2019年4月21日（日）11：00～16：00
 場 所：東京助産師会館 5階会議室
 出席理事：井村 真澄、大石 時子、久保田君枝、永橋 美幸、福島 裕子、
 正岡 経子、村上 明美、若井 和子、渡邊 典子、渡邊 浩子
 出席監事：猿田 了子、武田江里子
 出席幹事：森 聖美、山崎 圭子
 書記：森 聖美（敬称略）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 総務関係
①第10回社員総会日程案について
②役員選挙について
③正会員・個人会員入会について
- 2) 平成31年度収支予算書（案）について
- 3) 教育検討委員会
①教育検討委員会（推進班）活用チェックシートについて
②教育検討委員会（評価班）助産師教育課程入学時調査質問紙
4) e-ラーニングコンテンツ数と価格について

III 報告事項

- 1) 組織強化委員会
①助産師教育のキャリアラダーの見直しに関する報告書
②全国助産師教育協議会活動に関する調査報告
- 2) 広報委員会
①HP掲載申し合わせ事項
②ニュースレター No.91号発行について
- 3) セカンドステージ研修科目とアドバンス助産師更新要件の時間数について
- 4) 助産師国家試験ブール問題公募の啓発・応募促進事業 活動計画

IV その他

- 1) 2019年度 第3回理事会開催場所について
- 2) 自民党看護問題対策議員連盟平成31年度総会 次第及び要望書
- 3) 石田まさひろ議員 推薦の件
- 4) 授乳離乳ガイド
- 5) Nursing Now キャンペーン実行委員会（参加のご依頼）について

令和元年度 第2回理事会議事次第

日 時：2019年5月18日（土）11：00～16：00
 場 所：東京助産師会館 5階会議室
 出席理事：井村 真澄、大石 時子、久保田君枝、永橋 美幸、福島 裕子、
 正岡 経子、村上 明美、若井 和子、渡邊 典子、渡邊 浩子
 出席監事：猿田 了子、武田江里子
 出席幹事：森 聖美、山崎 圭子
 書記：森 聖美（敬称略）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 総務関係
①第1回理事会議事録案について
②平成30年度事業報告書（案）
③社員総会日程
・アドバンス助産師更新要件指定研修の受講証明書の作成について
④正会員退会・個人会員入会について
- 2) 会計関係
①平成30年度決算報告書（案）
②寄付金関係
- 3) 教育検討委員会（推進班）
・助産師教育のモデル・コアカリキュラム2018の活用チェックシートの修正の確認
- 4) CLoCMiP レベルⅢ〔教員〕の更新要件関係
①CLoMIP レベルⅢ〔教員〕の更新要件として認められる研修の【確認方法】
②CLoCMiP レベルⅢ〔教員〕更新要件として認められる研修の申請手続き
③CLoCMiP レベルⅢ更新要件の講義等を担当する講師の更新要件時間数の認定について
④認定証フォーマット
- 5) 将来に向けて育成したい助産師像（案）
- 6) HPリニューアルについて

III 報告事項

- 1) Nursing Now キャンペーン実行委員会

IV その他

- 1) 総務関係
①日本産婦人科医会「母と子のメンタルヘルスケア研修会」のお知らせ
全助協のHPにリンクについて
②「ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）」キャンペーンへの後援名義使用について
③「日本看護連盟通常総会・総決起大会」のご案内について
④「日本看護協会サミット2019・訪問看護サミット2019」後援名義使用承諾書報告
⑤文部科学省：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会

令和元年度 第3回理事会議事次第

日 時：2019年6月7日（金）15：00～17：00
場 所：千里阪急ホテル 3F 藤の間
出席理事：井村 真澄、大石 時子、久保田君枝、永橋 美幸、福島 裕子、
正岡 経子、村上 明美、若井 和子、渡邊 典子、渡邊 浩子
出席監事：猿田 了子、武田江里子
出席幹事：森 聖美、山崎 圭子
書 記：森 聖美 （敬称略）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 2019年度第2回理事会議事録（案）承認について
- 2) 社員総会運営について
- 3) 会計関係
・総会時の寄付金の対応について
- 4) CLoCMiP レベルⅢ【教員】の更新要件
① CLoCMiP レベルⅢ【教員】の更新要件として認められる研修の確認方法の確認
② 更新要件の講義を担当する講師の時間数についての確認
- 5) 第45回全国助産師教育協議会研修会（案）
- 6) 個人会員入会の承認
- 7) 望ましい助産師教育におけるコアカリキュラム（案）

III その他

令和元年度 第4回理事会議事次第

日 時：2019年6月8日（土）16：40～17：50
場 所：大阪大学
出席理事：小川久貴子、久保田君枝、近藤 良子、鳥越 郁代、長島貴久代、
野口 純子、正岡 経子、村上 明美、渡邊 典子、渡邊 浩子
出席監事：猿田 了子、武田江里子
出席幹事：山崎 圭子、森 聖美
書 記：森 聖美 （敬称略）

議事次第

I 審議事項

- 1) 新理事体制
① 会長（代表理事）、副会長、庶務・総務、会計の選出
② 委員会担当理事の決定
③ 助産師教育研究研修センター運営委員会担当理事選出
- 2) 次年度（2020年度）の総会について
・日時：6月13日～14日 場所：浜松医科大学

令和元年度 第5回理事会議事次第

日 時：2019年7月27日（土）11：00～16：00
場 所：東京都助産師会館 3階 教室
出席理事：村上 明美、渡邊 典子、渡邊 浩子、小川久貴子、久保田君枝、
近藤 良子、鳥越 郁代、長島貴久代、野口 純子、正岡 経子
出席監事：猿田 了子、武田江里子
出席幹事：森 聖美、山崎 圭子
書 記：森 聖美 （敬称略）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 総務関係
① 正会員退会届・個人会員入会の承認について
② 助産師教育研究研修センター運営委員会委員承認について
③ 総会運営について
- 2) 国際関連活動委員会
① 国際関連活動委員会委員の承認について
- 3) 教育検討委員会
① 2018大学院におけるモデル・コアカリキュラムのチェックリスト
② 2018現行コアカリキュラムのチェックリストの最終確認
③ 教育検討委員会委員の承認について
- 4) 社会貢献委員会委員の承認について
- 5) 将来構想委員会
① 望ましい助産師教育のコアカリキュラム作成の進捗状況の報告会、「カリキュラム作成にむけてー医学教育モデル・アカリキュラムをもとにー」（仮）研修会開催について
② 将来構想委員会委員の承認について
- 6) 組織強化委員会
・組織強化委員会委員の承認について
- 7) 広報委員会
① 会員専用ページのIDとパスワードの変更
② HPリニューアル時期について
③ 広報委員会委員の承認について
- 8) 資格・専門能力委員会委員の承認について
- 9) CLoCMiP レベルⅢ【教員】の更新要件
① CLoCMiP レベルⅢ【教員】更新要件について
② アドバンス助産師更新要件研修承認について
- 10) 個人情報保護管理者（第12条）及び「苦情対応責任者（第13条）」に伴い規定の改正
① 個人情報取扱規定
② パートタイム労働者就業規則

III 報告事項

- 1) 総務関係
① 2019年度第10回社員総会・第4回理事会議事録
② 2019年度理事会・地区長会日程表
- 2) 会計関係
① 第10回社員総会決算報告
② 2019年度収支予算書
③ 平成31（2019）年度事業計画・予算案
- 3) 国際関連活動委員会
① 2019年度事業・活動計画
② 国際関連活動委員会議事録
- 4) 社会貢献委員会
① 日本助産学会学術集会における学生交流の企画について
② リーフレット「助産師になる」の印刷について
③ 災害発生時の本協議会の対応（内容確認）
- 5) 将来構想委員会報告
- 6) 広報委員会2019年度活動計画について
- 7) 助産師国家試験ブール問題の作成・登録に関する研修会について
- 8) 助産師教育研究研修センター運営委員会
・eラーニングコンテンツ販売手順設定の進捗状況について

IV その他

- 1) 理事会における企画プレゼンについて
① レキオ・パワー・テクノロジー（株）より紹介
- 2) 競争入札参加資格取得について
- 3) 日本産科麻酔学会学術集会ご案内について
- 4) 日本助産学会のICM ブースの展示について

編 集 後 記

今年の夏も猛暑が続きましたが、やっと朝晩涼しくなって秋めいてまいりました。皆様は、読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、どのような秋を堪能されていますか。

今年度、広報委員会は8名の新委員でスタートいたしました。ニュースレター91号は昨年度までの旧委員から企画、準備を引き継ぎ、多くの先生方のご協力のもと発刊することとなりました。心より感謝申し上げます。

今回のトピックでは、社会的問題である少子時代における女性の健康、妊孕性について考える機会をいただきました。社会のニーズに応えるべく生涯にわたる女性の健康への支援に助産師としてどのように向き合っていくのか、これから助産師になる学生にどう伝えていくのかを追究していきたいと思いました。

今後とも、このニュースレターが会員の皆様にお役に立てていければ光栄に存じます。助産師教育協議会がより活発になりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

井田 歩美 （関西福祉大学）
井上 明子 （愛媛県立大学）
北村万由美 （広島国際大学）
若井 和子 （川崎医療福祉大学）
野口 純子 （香川県立保健医療大学）

●助産師教育ニュースレター 第91号

2019年10月1日

発行人 公益社団法人 全国助産師教育協議会事務局
Japan Society of Midwifery Education (J.S.M.E)
会長 村上 明美
〒112-0013
東京都文京区音羽1-19-18 東京都助産師会館2階
電話・FAX 03-3944-2911
(火・金 事務局在室)
<http://www.zenjomid.org/>
E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

全国助産師
教育協議会
QRコード



<http://www.zenjomid.org/>
バーコードリーダーで読み取ってください